

P136b      **ブライトリム分子雲の可視光分光探査**

細谷謙介, 伊藤洋一 (兵庫県立大学)

ブライトリム分子雲 (BRC) は、隣接する OB 型星からの紫外線放射などの外的要因によって星形成が促される誘発的星形成領域と考えられている。実際に、BRC14 に対しては近赤外波長の探査 (Matsuyanagi et al. 2006) と可視光分光探査 (Ogura et al. 1995) の結果から、BRC14 領域の連鎖的星形成の証拠が示されている。また、UKIRT を用いた近赤外波長の探査 (Hayashi, Itoh, Oasa 2012) によると、BRC に付随する前主系列星の数はその星が付随する BRC の表面のイオン化光子フラックス量と相関があることが分かっている。本研究では赤外超過を示さない前主系列星を探査し BRC の星形成メカニズムを解明するために、BRC を含む星形成領域に対して可視光スリットレス分光観測を行った。

我々はインド Girawali 天文台の IUCAA 2m 望遠鏡を用いて、BRC15-20,21,23-29,45 の計 15 個の BRC について、6563 Å を中心とした狭帯域で分光観測を行った。その結果 186 個の H $\alpha$  輝線天体を検出した。これらの R バンド等級は 10 ~ 18 等程度で 0.5 太陽質量程度の低質量 YSO と考えられる。

本講演では、検出された H $\alpha$  輝線を示す星と近赤外超過を示す天体の分布の比較などを報告する。